

第2回 電子書籍 E-Book の規格 Epub とサイバー図書館

はしぐち 橋口
こうのすけ 侯之介



江戸時代以前の和本と、現在進展する電子書籍E-Bookとは相容れない仲ではない。むしろ、これからの書物に求められるのは和本の世界にあった多様な本の楽しみ方である。そのためには、まず江戸の書物を知り、その実態を解明しながら考えるべきである。

HTMLとは

インターネット(ウェブページ)でブラウザーに記述するための言語。Hyper Text Markup Language バージョンは現在 5

Hyper Textとは、相互にファイルを呼び合う(リンクする)文のこと。

Markup Languageは、タグ(tag)と呼ばれるマークで記述する方法。

CSS

ウェブページのスタイルを細かく指定する言語。Cascading Style Sheets。Cascade は直列にさまざまな表現をつなげるといった意味。

HTML を補完して使用する例えば色、大きさ、位置、レイアウトなど。バージョンは現在 3。

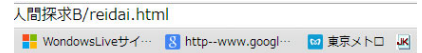
SCRIPT

ウェブページをアプリケーションにするプログラム言語。現在 JavaScript が最も使われる。

```

<html lang="ja">          <!--日本語モードでHTML開始-->
<head>                   <!--ヘッダー開始-->
<meta charset="UTF-8">  <!--使用するフォントをUnicodeに指定-->
<title>変体仮名の検索</title> <!--タイトル-->
<link rel="stylesheet" href="main.css"> <!--cssの記述されたファイルの指定-->
</head>                  <!--ヘッダー終了-->
<body>                   <!--ここから本文 最初にJavaScriptの関数を開く-->
<script language="javascript"> <!--JavaScriptを用いると宣言-->
<!--ここから7行はJavaScriptの関数-->
function chushutu() {
  for (i=0;i<document.all.oTable.tbodies.length;i++) {
    document.all.oTable.tbodies[i].rows[0].cell[3].innertext =
  }
}
</script>                <!--JavaScriptの記述終わり-->
<br><br>                  <!--ここからHTMLの記述。br は改行の指定-->
<center>                 <!--表示を画面の中央にする-->
<br>
  <!--百人一首の画像を呼び出して幅180ピクセルで表示-->
<span class="il_dr">古典かな、歴史的仮名書体の検索</span><br>
  <!--見出しの表示 大きい文字でダークレッドの色指定-->
<input id="ken" type="button" value="go" onclick="chushutu()"><br>
  <!--[go]と書かれたボタン。ここをクリックすると
  JavaScriptの"chushutu()"という関数が実行される-->
</center>                <!--画面の中央表示を解除-->
</body>                  <!--本文の終わり-->
</html>                  <!--HTMLの終わり-->

```



古典かな、歴史的仮名書体の検索

GO

←HTMLの実例。

< >で囲まれたのがタグ
タグは画面には出てこない
で。タグの間の所だけが表現
される。それがマークアップ
言語。<!-->は注釈で、実行の
さいには無視される。

↑これをブラウザーで表現した
もの

XHTML

HTMLの拡張仕様。Extensible HyperText Markup Language。この最新版は、HTML5を取り入れてXHTML5となる。これでウェブページと同じように電子書籍のコンテンツが記述できる

EPUB イーパブ Electronic PUBlication

IDPF(International Digital Publishing Forum)が定めた電子書籍E-Bookの規格。管理するデータ、書誌データと本文(マークアップのXHTMLでつくることできる)などからなる。

IDPFは、Apple,Adbe,Google,Sony,楽天などがメンバー。日本にはJapan Electronic Publishers Association(JEPA、日本電子出版協会)という団体もある。iPad・Kindle・Kobo・Android端末で使えるが、まだ不十分。日本ではシャープが開発したXPDFやボイジャー社の.bookという規格もあるが、普及は今一。

日本語表現の難しさ

EPUBは欧米のベンダーが中心だったので、日本語の特に縦組みやルビなどのレイアウト(日本語組版)に不向きだった。2012年バージョン3になって、かなり複雑な日本語組み方にも対応できるようになり、既存の書籍はほとんど変換できる。一太郎っからEPUBへの出力することもできる。同時に専用端末でなければ読めないのではなく、機種を選ばないのが良い。

リフローと固定レイアウト

EPUBの最大の売りは、端末の大きさや文字サイズの変更によってページ・レイアウトが連動するリフロー機能が可能になったこと。逆にPDFは固定型レイアウトの典型。

規格の制定委員会

汎世界的な規格なので、国際的な合意の上で新しい規格が追加される(Enhanced Global Language Supportサブグループ)。そのリーダーに村田真氏。

具体的にはproperties属性につけ加える。そこに、絵巻物のような横スクロール機能が次期バージョン3.01に加えられることになった。わたしが属している小さな研究会の成果。

次世代型E-Bookの提案

E-Bookはたんに紙に印刷された書籍をデジタルコンテンツにして、電子機器で読めるというだけではない。紙にかわる媒体なら、それ以上の機能を有していなければ単なる代替で終わり、新しい意味を加えることができない。その提案として、近代の書物(グーテンベルクの銀河の世界)によって失われてしまった「本来の」書物のあり方を取り入れることであると主張する。

和本論からE-Bookへ

<http://www.ebook2forum.com/2012/12/from-wahon-to-ebook-1-emaki-mono/>

和本では、書物は共有される存在だった。だから書き入れも意味をもった。しかし、現代の本は、共有より購入に意味があり、大量生産される消費財になった。それで多くの知を普及したといえるが、同時に孤立化を進めてしまった。

専門化した知識こそオープンに

現在、理系の学術雑誌はデジタル化されているが、文系はまだほとんどが活字のまま。知識が断片化し、横の連絡すらとれない。無意味な専門化が進んでいる。E-Bookは、むしろここ力点をおくべきではないか(商用として採算がとれないので、実際は進まないのだろう)。用語や注のハイパーリンクによって相互の関係が出てくる。それこそが理想の大学図書館。

講義の要旨はpdfにするので、各自がダウンロードすること。

http://www.book-seishindo.jp/seikei_tanq/
質問は、専用メールでいつでも。 khashi@s.email.ne.jp